

平成 30 年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

平成 31 年 3 月

国立長野高専
教育改善委員会

平成30年度教育改善報告書 目次

1. 平成30年度教育改善委員会の活動方針	・ ・ ・ ・	1
1-1 目標		
1-2 点検業務の流れ		
1-3 課題の分類, 改善提案		
1-4 今年度の主な活動内容		
2. 平成30年度 各種委員会の活動状況の点検結果	・ ・ ・ ・	5
1. 教務委員会		
2. 学生支援委員会		
3. 寮務委員会		
4. 専攻科運営委員会		
5. 研究支援委員会		
6. 広報企画室		
7. 国際交流センター		
8. 教育改善委員会		
3. 平成30年度における各種点検報告	・ ・ ・ ・	21
3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検		
3-2 学生との意見交換会に関する点検		
3-3 平成28年度参与会で出された改善点の整理		
3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善		
3-5 エビデンス保管の電子化の改善および有効活用の検討		
4. 平成30年度 FD 研修会実施報告	・ ・ ・ ・	29
4-1 平成30年 第1回FD研修会 (4月27日)		
「Introduction to CDIO」		
シンガポール・ポリテク教育開発部ディレクター Prof. Helene Leong		
4-2 平成30年 第2回FD研修会 (6月6日)		
「サイバーセキュリティの重要性～攻撃の手口と対策～」		
(株) LAC 理事 長谷川 長一 氏		
5. 平成31年度の活動に向けた各種委員会等への提言	・ ・ ・ ・	32
6. 機関別認証評価の訪問調査結果を受けての各委員会への提言	・ ・ ・ ・	34

付録

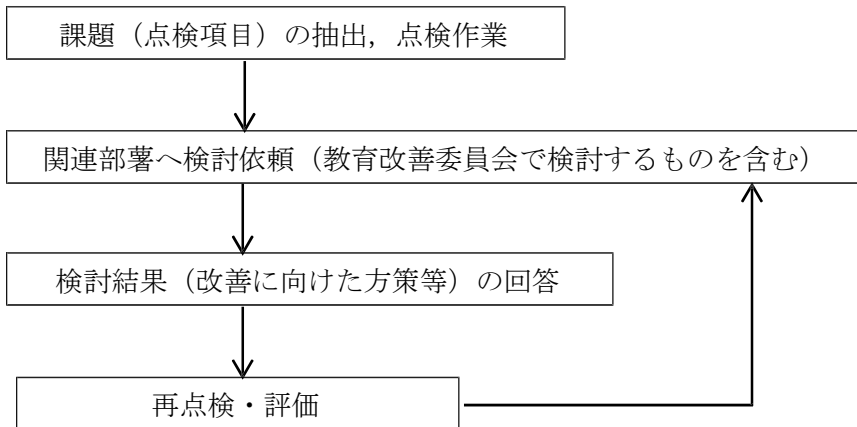
- 付録1 平成30年度学生会役員との意見交換会 議事録
- 付録2 第14回長野工業高等専門学校参与会概要
- 付録3 平成30年度 第1回FD研修会 講演資料
- 付録4 平成30年度 第2回FD研修会 講演資料
- 付録5 平成30年度 教育改善委員会 議事概要

1. 平成 30 年度 教育改善委員会の活動方針

1-1 目 標

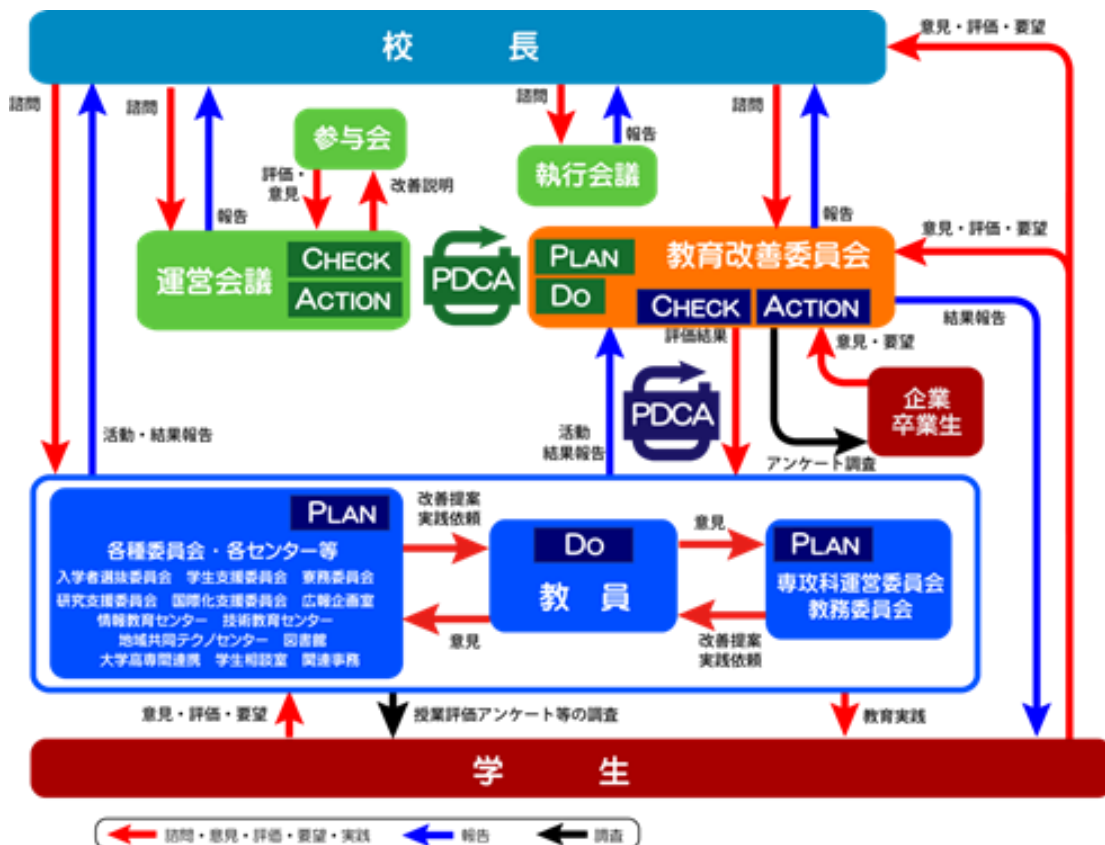
本校の教育システムを点検評価し、また教育水準を向上させるための取り組み(FD)を推進し、本校の教育改善に努める。特に PDCA サイクルの A(Action)を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

1-2 点検業務の流れ (Check)



1-3 課題の分類, 改善提案 (Action) → (Next Plan)

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD 研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員, 学生, 保護者等から指摘された課題



1-4 今年度の主な活動内容

- ◎ (1) 平成30年度各種委員会の活動状況の点検
 - 【各種委員会は、教務、専攻科運営、研究支援、学生支援、寮務、広報企画、国際交流センター、教育改善の8委員会とする。】
 - ・平成29年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。
(平成29年度教育改善報告書を参照)
 - ・平成30年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
 - ・平成31年度の活動に向けた課題を整理し提言する。
- ◎ (2) 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
 - ・当システムの評価・点検を行う。
- ◎ (3) 学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査の点検および自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検
 - ・平成26年度本科1年～5年生は新システムを導入した。その調査方法および調査報告の点検および評価を行う。
- ◎ (4) 学生との意見交換会に関する点検
 - ・平成30年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。
- ◎ (5) 平成29年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
 - ・平成29年度の参与会（2月開催）の点検と提言
- ◎ (6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討し各部署へ改善点を依頼教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【（ ）は前回の年度】
 - 1年目（平成26(21)年度）：アンケート調査の実施
 - 2年目（平成27(22)年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
 - 3年目（平成28(23)年度）：改善内容の実施
 - 4年目（平成29(24)年度）：
 - 5年目（平成30(25)年度）：改善内容を含めた教育システムの評価**
 - 6年目（平成31(26)年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施
- ◎ (7) 実施済研修会の効果の点検およびその改善
 - ・平成30年度は、効果を検討する。
- ◎ (8) FD研修会の企画・開催および報告書の作成：年3回開催を予定
 - 第1回FD：4月実施済み（CDIO関連）
 - 第2回FD：6月予定（サイバーセキュリティ関連）
- ◎ (9) エビデンス保管の電子化の改善
- ◎ (10) エビデンスの有効活用の検討
- ◎ (11) エビデンス収集・保管の改善について
 - ・表紙等書式の改善【(H30年度版)をグループウェアにアップする】
 - ・教育改善委員会ワーキンググループ（チーフ：百瀬委員）が担当する。
- ◎ (12) 試験問題レベルの保証確認 → 結果は学生課で保管
 - ・年2回実施（前期10月、後期3月）
 - ・各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。
- ◎ (13) 各部署への検討依頼，回答の集約

- ◎ (14) メール目安箱への対応
- ◎ (15) 平成30年度版教育改善報告書の編集・発行

委員会予定

- 第1回 5月： 方針，業務分担，エビデンス収集
エビデンス保管の電子化の改善
 - 第2回 7月： 参加会からの改善点，実施済研修会の点検，
授業改善システム（H30年）の実施の依頼
 - 第3回 9月： 授業改善システムの実施報告
学習・教育目標の達成度に関する調査の点検と改善
卒業生アンケート調査結果からの教育システムの評価
エビデンスの有効活用の検討
 - 第4回 11月： 試験問題レベル保証の確認（前期分），各種点検の報告
 - 第5回 1月： 教育改善報告書作成依頼，各種点検の報告
 - 第6回 3月： 教育改善報告書のまとめ
(委員会の活動状況点検，学生との意見交換会を含む)，
試験問題レベル保証の確認（後期分）
- その他 メール： FD研修会の実施について
試験問題レベルの保証（作業依頼）

平成30年度教育改善委員会業務分担

	担当項	中島	鈴木	長坂	百瀬	藤田	酒井	戸谷	内山	事務	備考
1	平成30年度各種委員会の活動状況の点検	◎改善 第3者		寮	広報	専攻科	教務	国際交流 研究支援	学生支援	○	3月上旬
2	授業改善システムの実施と評価・点検 (作業含む)	◎ (制御)		○ (機械)	○ (電気)	○ (情報)	○ (環境)	○ (一般)	○ (一般)		7月依頼 9月上旬
3	学習・教育目標の達成度に関する調査の点検	○					◎				9月上旬
4	学生との意見交換会の点検	○							◎		3月上旬
5	平成29年度参与会で出された 改善点の整理	○		◎							7月下旬
6	卒業生・企業向けアンケート調査結果から 改善内容を含めた教育システムの評価	○	◎								9月上旬
7	実施済研修会の効果の点検およびその改善	○				◎					7月下旬
8	FD研修会の企画・実施	○ 第1回報告				第2回 報告				○	年3回開催
9	エビデンス保管の電子化の改善	○			◎						7月下旬
10	エビデンスの有効活用の検討	○			◎						9月上旬
11	エビデンス収集・保管の改善 (実務作業含む)	○			◎						WGで担当
12	試験問題レベルの保証確認	○ (制御)		○ (機械)	○ (電気)	○ (情報)	○ (環境)	○ (一般)	○ (一般)	◎	前期11月 後期3月
13	各部署への検討依頼，回答の集約	◎								○	随時
14	メール目安箱への対応	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	随時
15	教育改善報告書の編集・発行(PDF)	◎								○	3月下旬

2. 平成 30 年度 各種委員会の活動状況の点検結果

1. 教務委員会

(1) 平成 29 年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況

提言された課題	評定	根拠資料等
授業評価アンケートの活用を検討, 項目の簡略化, 収集方法の検討	◎	<p>年度当初より毎回の議題にあまり十分な議論が行われ, 実施されている.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回議事 授業評価アンケート実施方法の検討 ・第 6 回議事 授業評価アンケート実施方法の見直し案について ・第 7 回議事 前期授業評価アンケートコメントについて ・第 8 回議事 後期授業評価アンケートの実施について 実施時間の検討 ・第 9 回議事 後期授業評価アンケート実施方法について
学生の主体的な学習への取り組みと意欲向上を目的とした低学年向けの取り組み	○	<p>一部検討が行われているが, 学科共通の施策にいたっていない. 議事概要より,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回議事 学習到達度自己評価シートの内容見直し ・第 2 回議事 インターンシップ事業と海外研修の参加者募集について ・第 2 回議事 1 年生特活の専門学科の活用について ・第 3 回議事 夏季自主研修について ・第 4 回議事 夏季自主研修 校内学習塾について ・第 5 回議事 夏季自主研修 1 年次への問題解決型学習の導入について ・第 14 回議事 学習・教育目標の学生への周知について
専攻科と本科の連携を強化した教育体制の構築	△	<p>議事概要より,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回 科目内容やカリキュラムの本質的な連携について意見交換 ・第 6 回 専攻科への大学との連携をふまえたクウォーター制導入についての報告
教員間の連携, 協働教育の推進, 科目間連携の検討	△	<p>低学年の成績不振学生への学科連携についてのみ一部検討されている.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回議事 科目間連携会議について ・第 5 回議事 低学年の成績不振学生への学科連携について

(2) 平成 30 年度教務委員会の活動方針に基づいた改善状況

活動方針	評定	根拠資料等
<p>(1) 学生の主体的な学習への取り組みと意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体的な学習への取り組みへの施策検討と実施 ・学習時間の増進 ・対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入等 ・授業アンケート活用法の検討 ・自己評価シートの見直し 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回議事 学習到達度自己評価シートの活用のための内容見直し ・第 3 回議事 授業評価アンケート実施方法の検討 ・第 5 回議事 夏季自主研修について低学年へのモチベーション維持の取り組み ・第 6 回議事 授業評価アンケート実施方法の見直し案について ・第 8 回議事 後期授業評価アンケートの実施について ・第 10 回議事 学習到達度自己評価 実施方針について ・第 13 回 自己評価シートについて、学習実態調査について（議事なし） ・第 14 回議事 自己評価シートの集計結果について
<p>(2) キャリア教育を実施，推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年学生への学習法の指導と継続的フォロー ・中高学年学生の主体的学習の推進 ・キャリア教育の実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回議事 キャリア科目に関する報告 ・第 5 回議事 夏季自主研修について低学年へのモチベーション維持の取り組み
<p>(3) 教員間の連携と協働教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目間連携 ・教員のグループ化の検討 ・Blackboard の利用促進 ・モデルコアカリキュラムへの対応 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回議事 モデルコアカリキュラムに対する意見について ・第 5 回議事 低学年の成績不振学生への学科連携について
<p>(4) 専攻科との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回議事 本科での履修科目から学習科目への変更で不足している部分の専攻科でのフォロー ・第 6 回議事 専攻科へのクォーター制の導入について

(3) 平成 31 年度の活動に向けた提言

- ・学生の主体的な学習への取り組みと意欲の向上が課題に挙げられているが、学習時間の増進、対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入等に関する検討は不十分である。夏季自主研修の課題提供として専門科目の重要性を具体的に認識できる低学年学生向けの問題解決型学習の導入例、企業見学会やインターンシップがあげられているが限定的である。強化されたい。
- ・本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築について、方針、内容が不明確である。とくに教務委員会では専攻科との連携が議題で取り上げられており、必要があるとの認識が確認できるが、専攻科運営委員会で本科との連携が課題となっておらず、連携を強化した教育体制の構築には双方の協力が必要であると考えられるため、よりいっそうの努力を期待したい。
- ・科目間連携が低学年の成績不振学生への対応に限った話になっている。教員間の連携と協働教育に踏み込んだ話になっていないため、高度化連携も踏まえて教員のグループ化について検討を進めるべきである。また Blackboard の利用促進や MCC への対応は活動方針にあがっていたが検討が行われていない。これに関する議論を強化していただきたい。

2. 学生支援委員会

(1) 平成 29 年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

今後の課題	評定	根拠資料 等
1.教務委員会と連携して、低学年のキャリア教育を充実させる。	○	第 4・5 回（工嶺祭中の企業展） 第 6 回（進路指導に関する意見交換会，4 年生対象進路講演会について） 第 7 回（5 年生による 1 学年対象進路講演会の開催，4 年生進学講演会，進路指導に関する意見交換会，キャリアセミナーについて） ・工嶺祭企業展示 10 月 20 日，21 日 ・1 学年 5 年生による進路講演会実施 12 月 11 日 ・5 年生有志による進学講演会実施 12 月 17 日 ・4 年生向け進学説明会実施 12 月 19 日 ・OB・OB 講演会実施 2019 年 1 月 16 日 ・4 学年進路セミナーの開催 2019 年 2 月 2 日

(2) 平成 30 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料 等
1.委員会全般，福利厚生・学資支援（授業料免除，奨学金，健康・安全，他） 授業料免除の選考，奨学金の推薦，交通安全講習会などの実施，学生の福祉について等	○	第 1 回（平成 30 年度学生支援委員会活動方針・課題等と役割分担，指導方針及び学生生活の支援・指導，奨学金推薦，入学料，授業料免除選考基準について） 臨時(4/5) 大学編入の際の推薦基準について 第 2 回（ウシオ財団奨学生選考，1・3 年生対象心のケア講演会，4 年生対象交通安全及び SNS 講習会） 第 3 回（北信奨学財団奨学生推薦，卓越した学生に対する授業料免除について） 第 4 回（授業料免除選考基準等の改正，夏季休業中の注意事項，日本学生支援機構給付型奨学金，留学生へのサポートについて） 第 6 回（卓越した学生に対する授業料免除，2019 年度学事歴，後援会と学生会及び寮生会役員との懇談会について） 第 7 回（平成 30 年度後期授業料免除，太田・オリオン財団奨学生の選考，2019 年度学事歴，席次決定方法の検討，キャリアセミナーについて） 第 8 回（学生表彰，自転車保険について） 第 9 回（学生便覧記載事項，今年度学生支援委員会のまとめ，自転車保険加入，学事歴，いじめ防止対策推進法について，3 学年生と性の講演会実施報告） 第 10 回（機構学生表彰の推薦，学生表彰，日本学生支援機構奨学生適格認定の基準，今年度終業式等の日程，今年度学生支援委員会のまとめ，学事歴，「いじめ防止対策推進法の改正案について」に関する意見照会について） 第 11 回（今年度学生支援委員会のまとめ，来年度以降の終業式等の日程，4 年生対象 SNS 講習会について）
2.進路活動支援（進路説明会，進路講演会，他）進路講演会，進学講演会，講習会の開催，進路指導方針の検討等	○	第 2 回（進路指導に関わる成績順位について） 第 5 回（キャリア形成支援講演会開催について） 第 6 回（進路指導に関する意見交換会，4 年生向

	<p>け進路講演会について) 第7回(5年生による1学年対象進路講演会の開催, 4年生進学講演会, 進路指導に関する意見交換会について) 第8回(進路指導に関わる成績順位の決め方, 2019年度就職指導要項・進学指導要項, 4学年対象OB・OGによる進路講演会, 4学年進路セミナーの開催, 4学年対象進学講演会, 2020年度(2021年3月)卒業・修了予定者の就職・採用に関する日程等, 進路支援システムにおける求人票の公開について) 第9回(ライフデザインセミナーの開催, 5年生による1学年対象進路講演会実施報告, 5年生有志による進学講演会実施報告, 4年生向け進学説明会実施報告, 4学年進路セミナーの開催について) 第10回(就職に関する学校推薦の指導方針(申合せ)の改正, OB・OB講演会実施報告, 進路指導のための会議について) 第11回(COSINA奨学金の応募条件, 進路セミナー, 進路説明会について)</p>
<p>3.学生会活動支援(学生会, ボランティア, 他)学生会への支援, 各種委員会活動の活性化等</p>	<p>○ 第2回(クラスマッチの開催, 学生総会の報告, 第1・2体育館のワックスがけについて) 第4回(全国大会壮行会, 学生との意見交換会) 第5回(高専体育大会壮行会について) 第8回(学生会役員研修, リーダーズ研修会, 学生との意見交換会, 学生ボランティアの実施状況について, 学生会役員選挙について) 第9回(学生会選挙結果 学生会誌「翠嶺」編集経過報告, 学生会役員研修会・リーダーズ(部長会)研修会について) 第10回(リーダーズ研修会報告) 第11回(学生会役員研修会実施報告, 翠嶺について)</p>
<p>4.課外活動支援(部長会, 各種コンテスト, 他)部・同好会の指導体制の確立, 長期休業中の課外活動の実施方法の検討等</p>	<p>○ 第1回(部・同好会指導教員について) 第2回(部・同好会活動の指導に関するガイドライン, 課外活動の今後について) 第3回(長期休業中の宿泊を伴う課外活動, 同好会の設立について, 部室点検, 部・同好会指導教員) 第4回(課外活動検討WG, 厚生補導設備充実費, 部室点検結果について) 第5回(厚生補導設備充実費, 夏季自主研修期間中における課外活動等に伴う寮宿泊について) 第6回(課外活動検討WGについて) 第8回(課外活動検討WGからの答申, 今年度課外活動全国規模大会結果一覧について) 第9回(今後の課外活動の指導方針, 学年末休業中の部活動宿泊, 後援会との平成31年度予算会議について) 第10回(2019年度課外活動指導教員, 課外活動に関するホームページの記載について) 第11回(2019年度部・同好会指導教員, セミナー室1, 学年末休業中の課外活動について)</p>

<p>5.工嶺祭等支援（工嶺祭，他）工嶺祭のあり方の検討と指導，実行委員会活動への支援</p>	<p>○ 第2・3・7回（工嶺祭について） 第4回（工嶺祭駐車場，企業展について） 第5回（工嶺祭準備状況等） 第6回（工嶺祭実施計画と指導体制について） 第8回（工嶺祭反省） 第10回（工嶺祭プロジェクトについて）</p>
<p>6.生活指導（環境美化 清掃，車両，飲酒喫煙，問題行動指導，など） アルバイトの指導，学校生活向上指導 清掃デーの実施，交通安全 車両通学規定の遵守，車両 喫煙防止の巡回指導，SNSに関する指導</p>	<p>○ 第1回（新年度における諸手続，飲酒・喫煙・車両違反・マージャン・ゲーム機等の指導要領，学校生活の安全と信頼関係の構築，前期清掃分担表，女子更衣室の使用，交通安全およびSNS講習会について） 第2回（喫煙違反・違反駐車駐輪指導要領，自動二輪，原付の通学許可，学生の指導，交通事故について） 第3回（清掃デーについて，4年交通安全とSNS講習会実施，自動二輪，原付の通学許可について） 第4回（夏期休業中の注意事項，清掃デーについて） 第5回（秋の交通安全週間の交通指導，8月の喫煙違反・違反駐車指導，大掃除，ゴミ分別について） 第6回（薬物乱用防止講演会の開催，生と性の講習会，消費者教育・主権者教育講演会，清掃デー，朝の通学指導，冬期間の車両（4輪）通学特別許可の申請について） 第7回（朝の通学指導について） 第8回（冬季限定車輛通学許可者，年末年始休業中の注意事項，清掃デー，教室のワックスがけ，寮生駐輪場の自転車盗難について，1学年薬物乱用防止講習会報告） 第9回（盗難防止策，清掃デーについて） 第10回（学生指導，不用自転車，放置自転車の整理，女子更衣室の清掃，春季（学年末）休業中の注意事項について） 第10回（学年末における教室の片付け，落書きについて） 第11回（不用・放置自転車の整理，部室（課外活動器具庫）の鍵の付け替え，女子更衣室清掃について）</p>
<p>7.広報活動（学生会活動，工嶺祭活動，課外活動等の広報，HPによる緊急時の連絡等）</p>	<p>○ ・就職 進学状況，学生会活動，課外活動等について web上へ速やかに結果報告するなど即時性に努めた広報活動が展開されていた。 ・学園便りに掲載される「学生の活動状況」については，偏りも見受けられるため，掲載する基準（例：全国的規模のコンテスト，大会等入賞者は1/2 ページ相当，出場団体(者)は一覧のみ掲載，関東信越地区については一覧のみなど）を作成し，学生・保護者等に不公平感を与えないように配慮するなど，広報委員会への働きかけが必要であると思われる。</p>

(3) 平成 30 年度の活動に向けた提言

- 1) 学生支援・指導について学生相談室との連携を深める。
- 2) 課外活動に関するホームページの掲載や学園便り等の広報活動について、情報セキュリティ委員会及び広報委員会との連携を図り、掲載基準の作成及びその徹底を図る。
- 3) 教務委員会と連携して、進路支援室等の充実を図り、キャリア教育を充実させる。

3. 寮務委員会

(1) 平成 29 年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

今後の課題	評価	根拠資料 等
・閉寮作業，開寮作業，部屋替え，継続在寮調査，感染症対策の各マニュアルの作成	○	・各種マニュアルを作成した。 (第 11 回で確認の依頼)
・寮生活の手引きの PDCA サイクルの作成と実施	○	・「寮生活の手引き」「学寮当直の手引き」「防災の手引き」をさらに実情に合わせて改定した。(第 15 回資料 1(H30 年度実施状況))
・1 年生への寮規則の周知方法の確立と実施 (対面式の改善を含む。)	○	・寮生会と協力して対面式を改善した。(第 3 回資料 8, 第 15 回資料 2(総括と課題))
・階長・副階長が業務遂行するよう指導の強化	△	・階長会を 3 回開催したが，結果が伴わなかった。(第 15 回資料 2(総括と課題))

(2) 平成 30 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

おもな活動内容	評価	根拠資料 等
寮生会役員，階長・副階長，指導寮生との意思疎通の促進と改革の推進		
1. 寮生会役員，階長・副階長，指導寮生との意思疎通の深化と改革の推進 (a) 寮生会役員との協議会を月 1 回，また正副階長会議，監査会議を年数回の開催し，寮生会の主体的活動を推進させる。 (b) リーダーズ研修などを開催する。 (c) 風紀委員と連携して，寮生自らが清掃状況を確認・指導する体制を整える。 (d) 寮生会役員自らが学習や生活の面において寮生の模範となるよう指導する。 (e) 1 年生への寮規則遵守指導法を寮生会役員と体制を整え実施する。	△	・第 15 回委員会資料 1(H30 年度実施状況) (a)協議会は 4/24, 5/22, 6/28, 7/16, 10/1, 11/16, 12/19, 1/18 合計 8 回，正副階長会議は 3 回それぞれ開催した。 (b)リーダーズ研修などは実施しなかった。 (c)閉寮前の大掃除について，違反学生を当てるなどをし，学生が中心となり実施できた。屋外清掃は，6/13(水)，7/11(水)，11/20(火)の 3 回実施した。 (d)5 号館 1F の清掃が行届いておらず指導したが，改善がなかった。 (e)寮生会と協力して対面式を改善した。 1 年の生活態度が例年よりよくなかった。
2. 階長・副階長，指導寮生の役割の明確化 (a) 登校カードの掲示の徹底と遅刻への対応 (b) 郵便配達当番と階長の役割分担の明確化 (c) 共用スペース (談話室や補食室) に対する清掃意識の涵養と清掃	△	・第 15 回委員会資料 1(H30 年度実施状況) 補食室や談話室の掃除も行届いておらず，登校カードの掲示・収納も含めて，階長・副階長への指導を次年度への課題とする。
3. 寮生会企画の充実 (a) 寮生に自立を考慮してもらった企画の実施 (b) 寮祭の充実 (実施内容の指導を含む。)	○	・第 15 回委員会資料 1(H30 年度実施状況) (a)4/12 新入寮生歓迎会，5/9 1 年生防災訓練，6/24 FIFA ワールドカップ 日本対セネガル戦の観戦と 8/7 ジャガバター配付と花火大会，夏の寮祭 (7 月)，10/30 避難訓練，11/3 ドッチビー大会，12/19 クリスマス会，冬の寮祭 (1 月)，2/20 5 年生卒寮祝賀夕食会，その他に抽選会が実施された。

		(b) ネットワーク講演会を冬の寮祭とからめ実施し、ネットワーク違反者 36 名(内一年 10 名)と 1 年生 62 名の 88 名が出席した。
4. 学習習慣の涵養と学習支援体制の整備 (a) 低学年勉強会の開催 (b) コアタイム定着目的の巡視を実施 (c) ネットワークの学習面での利用促進	△	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) (a)3週間前に4回開催した。 (b)部屋に居て勉強しているか、またはいなかで判断したが、見直しが必要である。 (c)動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっている場合が多くあり、次年度への課題とする。
5. 留学生(短期・長期含む)と日本人寮生との対話、友好、交流の拡大	△	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 6/24 FIFA ワールドカップ 日本対セネガル戦の観戦と 8/7 花火大会を開催した。短期留学生も参加できる企画を今後も実施したい。
寮務委員会としての指導・表彰などの体制作りをする。		
1. 努力し成果を挙げている寮生への顕彰として、「寮生努力賞」や「寮生模範賞」を授与する。	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 寮生会役員 6 名に「感謝賞」、40 名に「寮生努力賞」を授与し、H31 新入寮生歓迎会で表彰する。
2. 「雄清通信」(印刷媒体)や web ページ等を利用し、保護者との連絡・連携を密にする。	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 夏号 9/18 (全寮生に郵送配付)、秋号 10/20 (工嶺祭で配付)、冬号 12/22 (持帰り)、春号 2/28 (持帰り)の 4 回発行した。また、寮生会役員が定期的に Facebook を更新した。
3. ネットワークの不正使用(通信量が多い場合を含む)に対する有効な指導方法を確立・実施する。	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 利用違反者数は昨年と同数であったが、動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっているケースがあり、ネットワーク利用および違反指導は次年度への課題とする。
4. 自転車の無断借用、整理整頓、風呂の時間、ゴミの捨て方など生活面での指導強化	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 自転車の盗難が 2 件だった。補食室や談話室の清掃は行届いていなかった。
5. 協力退寮者を違反点数だけでなく通学距離や学年、学業成績や出欠状況等を加味して選考し、協力退寮者候補者へは期を逸さずに連絡・指導する。	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 協力退寮者選考基準は昨年と同様とし、早めに協力退寮者候補には連絡をした。結果的に協力退寮者は 0 名であった。
6. 食事の摂取調査を実施し、不摂取者へ指導する。	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 2 回、寮生会役員が中心となり実施し、低学年の不摂取者には指導を行った。全体では 6 割から 7 割程度しか朝食を摂取していない。
システムの見直し、構築および施設面の充実を行う。		
1. 閉寮作業、開寮作業、部屋替え、継続在寮調査、感染症対策の各マニュアルの作成 2. 寮生活の手引きの PDCA サイクルの作成 3. 1 年生への寮規則遵守指導法の確立	○	・第 15 回委員会資料1(H30 年度実施状況) 各種マニュアルを作成した。また、「寮生活の手引き」「学寮当直の手引き」「防災の手引き」をさらに実情に合わせて改定した。これら三文書を PDCA サイクルで運用・改定ができた。

(3) 平成31年度の活動に向けた提言

- ・ 補食室や談話室の掃除等，登校カードの掲示・収納も含めて，正副階長への指導
- ・ 動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっているため，ネットワーク利用および違反指導

4. 専攻科運営委員会

(1) 平成29年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

平成29年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況について以下に報告する。

今後の課題	評価	主な根拠資料等
(1) 学習教育目標達成度調査	○	第11回委員会資料(No.6) 第12回委員会議事概要(報告2)
(2) 学生満足度調査	○	第11回委員会資料(No.4)

(2) 平成30年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評価	主な根拠資料等
1. 学生への対応		
(1) ガイダンス, 履修科目指導と単位取得状況把握	○	第1回委員会議事概要(議題1) 第2回委員会議事概要(議題2) 第4回委員会議事概要(報告4) 第6回委員会議事概要(報告2)
(2) 進路指導, 学生指導	○	第1回委員会議事概要(報告2) 第4回委員会議事概要(報告1) 第5回委員会議事概要(報告1) 第6回委員会議事概要(報告1) 第7回委員会議事概要(報告1)
(3) 面談と学習教育目標達成度調査, 学生満足度調査	○	第1回委員会議事概要(報告2) 第11回委員会議事概要(報告2) 第12回委員会議事概要(報告2) 第11回委員会資料(No.4)
2. 専攻科入学試験	○	第1回委員会議事概要(議題4) 第2回委員会議事概要(議題4) 第3回委員会議事概要(議題1)
3. 学外実習	○	第2回委員会議事概要(議題1, 3) 第3回委員会議事概要(議題2) 第4回委員会議事概要(議題1,2) 第6回委員会議事概要(議題4) 第9回委員会議事概要(報告1, 2) 第11回委員会議事概要(報告4) 第12回委員会議事概要(報告5)
4. 特別研究に対する指導	○	第1回委員会議事概要(No.2) 第4回委員会議事概要(報告3)
5. 学士取得に対する指導		
(1) 学士取得に関する説明会	○	第1回委員会資料(No.1)
(2) 特別研究に関する指導	○	第1回委員会議事概要(議題3) 第10回委員会議事概要(議題3, 報告2)
(3) 特例適用への対応	○	第7回委員会議事概要(報告3) 第10回委員会議事概要(報告3)
6. 意見交換会の実施	○	第10回委員会議事概要(報告2) 第11回委員会議事概要(報告4) 第11回委員会議事概要(報告4)
7. カリキュラムの見直し	○	第1回委員会資料(No.5) 第2回委員会議事概要(議題6)

		第5回委員会議事概要(議題6) 第9回委員会議事概要(議題3)
8. 大学との連携	○	第4回委員会議事概要(報告7) 第5回委員会議事概要(報告3) 第6回委員会議事概要(議題1) 第7回委員会議事概要(議題2) 第8回委員会議事概要(議題1) 第9回委員会議事概要(報告3) 第10回委員会議事概要(報告3)

(3) 平成31年度の活動に向けた提言

カリキュラムの見直し，大学との連携など，新しい改善の動きがみられる．今年度計画され，来年度から実施される，大学との連携について評価と改善が望まれる．

5. 研究支援委員会

(1) 平成 29 年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評 定	根拠資料等
・外部資金獲得に関する情報提供について一層の充実を行う．	○	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得に向けた各種講演会や活動の案内をグループウェアにて随時行っている ・官公庁や財団法人等の外部資金情報をグループウェアにて随時行っている ・外部資金獲得の情報をグループウェアにて随時行っている ・「平成31年度科学研究費助成事業の申請」 全教員の申請を目標とすることを学科内で周知するよう努める．(第4回研究支援委員会議事概要) ・科学研究費助成事業への申請状況について報告(第5回研究支援委員会議事概要) ・「科学研究費助成事業における添削支援者の募集について」(第2回研究支援委員会議事概要) ・「科研申請書の添削希望の募集について」(第4回研究支援委員会議事概要) ・「科研申請書の添削希望募集の延長について」(第4回研究支援委員会議事概要)
・配分研究費が削減される中，校内予算を活用した研究費支援を行う．	○	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費の審査結果が「A」であった教員に研究費10万円を追加配分(第2回研究支援委員会議事概要) ・ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究支援(第1回研究支援委員会議事概要) ・知的財産戦略室活動計画(第1回研究支援委員会議事概要) ・科研費申請書の添削者のインセンティブ(第4回研究支援委員会議事概要)

(2) 平成 30 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

活動項目と主要課題	評価	根拠資料等
1. 研究倫理教育 研究倫理教育の実施について各学科で周知	○	・平成 30 年度第 4 回研究支援委員会議事概要
2. 発明の評価・帰属, 審査請求判定, 特許権維持判定 ・申請がある都度随時行った	○	・平成 30 年度第 1・2・5・6・7 回研究支援委員会議事概要
3. ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究テーマ ・新規テーマ募集を行い, 配分研究テーマを選定した ・研究テーマのほか海外出張等での支援についての周知	○	・平成 30 年度第 1 回研究支援委員会議事概要 ・平成 30 年度第 5 回研究支援委員会議事概要
4. 「科学研究費助成事業」審査結果における研究費の配分 ・審査結果が A 判定の教員 3 名に対してミマキエンジニアリング包括協定に基づく寄付金から各 10 万円を配分	○	・平成 30 年度第 2 回研究支援委員会議事概要
5. 「科学研究費助成事業」添削支援	○	・平成 30 年度第 4 回研究支援委員会議事概要
6. 「間接経費」の有効な執行	○	・平成 30 年度第 1 回研究支援委員会議事概要
7. 研究支援委員会のポータルサイト ・グループウェアに通知文などが掲載されている		https://nagano-nct.cybozu.com/g/portal/index.csp?pid=41

(3) 平成 31 年度の活動に向けた提言

- ・引き続き研究活動について支援の充実化を図る。
- ・「動物実験」(第 1 回研究支援委員会議事概要), 「遺伝資源の取り扱い」(第 2 回研究支援委員会議事概要), について, 当該事案に該当する研究, 実験等が学内において確認された場合は, 随時検討する。
- ・「研究倫理教育」(第 4 回研究支援委員会議事概要) については, e-learning などにより, 引き続き教職員に向けて実施する。

6. 広報企画室

(1) 平成 29 年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評価	根拠資料等
サイエンス・ツアーの申込書・報告書の活用を検討	○	企画部門会議で以下の方針にした。申込書の簡略化の意見があったが, 押印を含め従来どおりとした。実施報告書は, 本年度から運用し, 依頼者に記述していただく方法にした。年度末に逆に手間がかかるという意見もあった。
サイエンス・ツアー協力教員への優遇対応	×	回数に応じて, 研究費補助の検討をしたが, 実施には至らなかった。
サイエンス・ツアーの対象が小中学校・住民自治などの団体が対象であることを明示	△	企画部門会議で以下の方針にした; 学校及び, 公的団体を基本とする。私的グループからの依頼は基本断ってよいが, 受けるかの最終判断は担当者に任せる。ただし, これらの方針を教職員ならびに派遣希望者へ周知しておらず, 認知されているとはいえない。
グッズ・ノベルティの配布計画(入試倍率確保を視野に入れる)	◎	エコバッグ・オリジナルシャープペンシル・消しゴムの制作に加え, 予算の残りを消しゴムと定規の制作に当てた。
公開企画部門の活動が高専 PR・入試倍率の維持・優	◎	サイエンス・ライブを昨年 4 テーマから, 11 テーマに増やした。実際に高専に来校することで, 高専の認知を高めることと

秀な学生の確保につなげる方法		した。また長野高専キッズサイエンス 2018 を開催した。
学園だより配布先(上越地区, 山梨地区)の検討	×	予算の有効利用という観点から, 配布は適切ではないと判断した。
学園だより年 3 回発行から 2 回発行を検討	○	刊行物部門会議では, 学園だより春号を廃止する方針で一致した。第 2 回広報委員会でも廃止の提案を行ったが, 2019 年度は年学園だよりを年 3 回発行し, 春号の廃止については継続審議することとなった。

公式 web サイトのトップページ, ページ構成, コンテンツ, 英語ページなどのリニューアル検討	○	寄付金(長野高専基金)のページを新たに設立した。またアンブレプレナーシップ, 国際化などの取り組みに関する記事を多く掲載した。英語ページをリニューアルは実施中であり, 来年度公開予定。
公式 web サイトのスマートフォンを中心としたモバイルアクセスへの対応を検討	×	スマホページの問題については, レスポンシブ化も検討されたが, 費用の点で断念した。

(2) 平成 30 年度委員会からの活動方針に基づいた活動状況

活動項目	評価	根拠資料等
【公開企画部門】		
科学イベントの参加・実施	◎	<p>根拠資料...平成 30 年度 3 回広報企画室会議資料 No.1:「平成 30 年度広報企画室活動のまとめ」(以下同様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017 まつもと広域ものづくりフェア(7/14・15)に参加, 10 テーマ(H29 年度は 11 テーマ)を実施(参加者:教員 6 名, 補助学生 10 名, 来場者数 13,950 名) ・ 「体験と学びの環境博 2018」併設イベント「キッズサイエンス in 環境博」(7/28,29)に参加, 9 テーマを実施(参加者:教員 7 名, 期末試験前のため補助学生 0 名) ・ 産業フェア in 信州 「キッズものづくり体験ランド」(10/27)に参加, 3 テーマを実施(参加者:教員 4 名, 補助学生 6 名, 来場者数 13,714 名) ・ 長野高専キッズサイエンス 2018(11/3)に参加, 16 テーマを実施(参加者:教職員 26 名, 補助学生 93 名, 来場者数 1,647 名)
サイエンス・ツアー, サイエンス・ライブ	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイエンス・ツアー(出前授業)...テーマ募集期間 4/20~5/1, 公開テーマ数 26, 実施テーマ:43 件(参加者総数 1,663 名) ・ サイエンス・ライブ(公開講座)...実施テーマ:11 件 <ol style="list-style-type: none"> ① プログラミング入門(東北中共催) ② Java プログラミング入門(7/8) ③ 小中学生のための電子制御入門講座マイコンで自走車を動かそう(8/11) ④ だれでも理解できる!「簡単・お手軽 マイコン入門」(8/18) ⑤ 子どもプログラミング教室(8/20) ⑥ 子どもプログラミング教室(8/25) ⑦ コンピュータグラフィックス(CG)で新しい世界をつくろう!!(9/15) ⑧ 体験!環境都市工学科(11/17) ⑨ 空中に絵を描こう~バーサライタの作成~(11/23) ⑩ かんたん組立てキット『リトルビッツ』を用いた電子工作(12/1)

		⑩ 小中学生バスケットボール教室『スポコミ×高専 バスケ塾』(4～3月の毎週火曜日)
産業フェアへの参加	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ しんきんビジネスフェア(5/16)に出展(1ブース), 来場者数 2,700名 ・ ぞっこんさく市(10/6・7)に出展(2ブース), 来場者数 5,200名 ・ 諏訪圏工業メッセ(10/18～20)に出展(2ブース), 来場者数 28,876名 ・ 産業フェア in 信州(10/26・27)に出展(5ブース), 来場者数 13,714名 ・ 上田産業展(10/26・27)に出展(2ブース), 来場者数 6,413名
【刊行物部門】		
広報・刊行物	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 入学案内・学生募集ポスターの制作(4月) ・ 2019 学校要覧(日本語版)の制作(6月) ・ 2019 学校要覧(英語版)の制作(11～1月) ・ 学園だより(春号, 夏号, 秋冬号)の発行・配布 ・ エコバッグ・オリジナルシャープペンシル・消しゴム・定規の制作
【情報発信部門】		
新規コーナー, 記事の作成	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長野高専基金のページを新規に設立し, トップページ下部のバナーから入れるように設定した。またアントレプレナーシップ, 国際化に関する活動を紹介する記事を多く掲載し, トピックスの1カテゴリとして新規に設定した。
公式 Web サイトの案内チラシの作成・配布	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ チラシの版は昨年度作成のものを利用した。11万部を印刷し全県ならびに隣県の中学生に配布した。ただし費用対効果には疑問が残る。
インタビュー記事の掲載	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ OB1名, 教員の研究紹介1件。現役学生1名にも依頼したが掲載に至らず。研究紹介インタビューにいたっては, 記事への誘導もなく掲載されたことに気づけない。
Webシステムの保守	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム死活監視, システムトラブル対応, バックアップならびにその管理, 以上のサービスを導入し継続中。ただし運用方法が十分に確立されておらず, 実際の手順等を明確にする必要がある。
学生活動紹介ページの管理	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い記事を非公開状態にしてプログラムの軽量化をはかった。 ・ 運動部に関する記事が多いと指摘を受けており, 運動部以外の活動紹介を指導教員に促した。研究発表や受賞, コンテストの参加などの記事が集まるよう今後促していく。 ・ 研修旅行などの学校行事に関する記事の発信をどの部門が担当するのか明確化しておらず, 掲載にいたらなかった。

(3) 平成31年の活動に向けた提言

<広報企画部門>

- ・ サイエンス・ツアーの申込書やアンケートを, 記入ならびに集計のしやすい方式に切り替えることを検討してはどうか。最近では Google フォームの利用が, 集計なども自動でおこなわれ有効に思われる。
- ・ サイエンス・ツアーも含めた科学イベントへの参画の状況について, 教員間で大きく差があり, 参画教員の確保も困難となっている。参画教員のモチベーション維持のためにも, 教員校務における位置づけを明確にし, 人事評価・職務待遇面におけるインセンティブを検討してはどうか。
- ・ サイエンス・ツアーやサイエンス・ライブへの参画者募集が年度当初の忙しい時期におこなわれているため, 事前予告(前年度3月)を実施する。
- ・ 産業フェア等への出展は, イベント全体への来場者数だけではなく, 出展ブースにどれだけの人が立ち寄り, 資料配付やアンケート収集などの成果がどれだけあったのかを費用対効果の目安にすべ

きに思う。

- 前項と通じるが、部門の活動が高専の PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保と重要な目的を担っており、そのため実に多岐・多数にわたっている。負担が過度とにならないよう、負担の分散化(企画室に留まらず各学科からの協力者を依頼するなど)や省力化(活動の回数を増やすのではなく、各イベントの中で広報効果をもっと上げる方法がないか、など)を、見に来る人側の視点も鑑みながら検討頂きたい。

< 刊行物部門 >

- 学園だよりの発行回数削減は、予算が問題ということならば一部をオンライン配信のみにする方法もあるのではないかと。たとえば情報発信部門で作成・配布している中学生向けチラシへ学園だよりの QR コードを載せたり、保護者へは成績通知書に QR コードを載せたプリントを同封したりするなど、予算を抑えて周知する方法もあろう。予算だけでなく、PR 効果、作成者の負担なども含めて発行回数について検討頂きたい。
- すでに広報イベントで配布したグッズやノベルティを手にした生徒が本校に入学してきている。たとえば定規などは印刷された方眼が便利であることや作りの丈夫さを理由に多くの学生が未だ活用している。グッズやノベルティの感想・意見などを調査し、次に作成するグッズへのフィードバックをかけてはどうか。

< 情報公開部門 >

- アントレプレナーシップ、国際化など、あらたな取り組みとしてアピールしたい内容についてはトピックスの一カテゴリとしてではなく、長野高専基金のようにバナーなどを用意して誘導してはどうか。ただし、ページ下部のバナーが果たして目に付きやすいかも含めて検討が必要である。
- トップページからの誘導がないため、新規に掲載したインタビュー記事(たとえば研究者ピックアップ)や、こまめに更新を続けている校内活動の記事(たとえば図書館)がまったく目に付かない。「見る人」と「見てもらいたい人」の両方の立場に立って、トップページからどのように誘導すべきなのかを検討・再構築して頂きたい。
- 同じく「何を見てもらいたいのか」の観点から、集まる(集める)記事のバランスを調整いただきたい。一年間の「トピックス」「お知らせ」の一覧を眺めると、運動部の結果報告、調達情報、教職員募集の案内が多く目に付く。学校行事、コンテストの参加、文化・製作系団体の活動などの記事は増えてもいいであろうし、インタビュー記事ももう少し1年あたりの取材件数が増えてもいいのではないかと。
- 「一番伝えたいこと」を伝えるにもっとも効果的である大型トップバナーが活かされていない。イベントへの募集、工嶺祭、大きなニュース、新規コーナーへの誘導など(前述のアントレプレナーシップや長野高専基金などにも使えるはずである)、活用法は多岐にわたる。積極的な活用を検討頂きたい。

7. 国際交流センター

(1) 平成 29 年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評価	根拠資料等
従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしてい	○	平成 29 年度国際交流センター活動報告書

(2) 平成 30 年度委員会の活動方針に基づいた活動状況 括弧内は年度中の会議の順番

活動項目	評価	根拠資料等
英語弁論大会への支援	○	7 月に校内で英語弁論大会を実施した。(臨時)また、関東信越地区大会に 4 名が参加した。
学生の国際的学術活動への推進	○	ISTS2018 において専攻科生 1 名が研究発表するため応募した。(担当者報告)
海外インターンシップの支援	○	・海外研修について下記のような計画(臨時)と報告(第 5 回)があった。 台湾本科生 5 名 香港本科生 6 名 ベトナム ダナン本科生 5 名 ハイフオン本科生 7 名 カンボジア専攻科生

		1名 インドネシア本科生2名 中国本科生8名 シンガポール本科生3名
外的機関との交流・提携の推進	○	・C D I O加盟（第1回）（第2回） ・中国国際放送局との協定について検討（第3回） ・危機管理の外部委託について検討を進めた。（第5回）（第7回）
国際会議への出席の推進	○	ISTS2018において専攻科生1名が研究発表をするため応募した。（担当者報告）
国際的視野の広がりや国際的コミュニケーション力の向上の育成	○	8・10月に東京日本語教育センターとの交流会を実施した。（第4回）（第6回）
外国機関等に所属する外国人との交流事業の実施	○	・香港IVE受け入れ（第1回） ・タイOVEC教員の本校研修（第1回） ・タマサート大学教員の本校視察（第3回） ・タイOVECテクニカルカレッジ学生受け入れ（第3回）（第4回） ・留学生研修旅行の検討 留学生研修旅行報告書の英語仕様（第6回） ・次年度「関東甲信越地区国立高専外国人留学生交流会」実施（第6回）
海外留学・語学研修等への啓蒙	○	・3月に香港へ本科生1名が研修旅行を実施した。
留学生交流会の企画・実施	○	・懇談会の検討と報告（第2回、第3回）意見交換会の概要説明（第9回）
留学生の学生生活の支援	○	長野中央警察署から警察官を招いて「安心安全講習会」を実施した。（第2回）
広報活動	○	・海外研修パンフレットの作成について検討（第5回、第6回） ・本校のホームページに国際交流センターのホームページを連結した。 ・随時海外からの視察及び学生の海外学会発表について、学園だよりに掲載した。
予算の獲得	○	・受け入れ研究室への予算配分の検討（臨時） ・従来センター長と学生課で検討していた予算について、国際交流センター会議において審議することになった。（第3回）
「国際交流センター活動報告書」の作成	○	・活動報告書の作成について説明と依頼をした。（第8回）（第9回） ・3月に報告書を作成した。

(3) 平成31年度委員会委員会の活動に向けた提言

- ・従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。

8. 教育改善委員会

(1) 平成29年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況

今後の課題	評定	根拠資料等
①エビデンスの有効活用	×	グループウェアに用意することを提案し実施に向けて議論してきたが、セキュリティ上の問題が残されるところとして見送った。
②授業改善システムの実施と評価・点検	△	システムの実施は行ったが、点検・改善は実施していない。(次年度への課題)
③卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善内容を含めた教育システムの評価	×	平成27年度教育改善報告書に報告しており、今年度は実施しなかった。
④国際化をにらんだ JABEE 認定継続を前提とした教員負荷低減策の検討(参与会より)	×	未検討である。JABEE認定への取り組み方も含め包括的に検討する必要があると思われる。

(2) 平成30年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料等
①平成30年度各種委員会の活動状況の点検	○	第6回で報告, 提言を決定
②授業改善システムの実施と評価・点検	△	システムの実施は行ったが、点検・改善は実施していない(次年度への課題)。
③学習・教育目標の達成度に関する調査の点検	×	教務委員会は、今年度実施方法を変更するため、報告書を作成しなかった。そのため、点検は実施しなかった。
④学生との意見交換会に関する点検	○	第6回で報告
⑤平成29年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理	○	第6回で報告
⑥卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討し各部署へ改善点を依頼	×	平成27年度教育改善報告書に報告があり、実施しなかった。
⑦実施済研修会の効果の点検およびその改善	○	第6回で報告
⑧FD研修会の企画・開催および報告書の作成 第1回「Introduction to CDIO」 4/27 第2回「サイバーセキュリティの重要性」 6/6	○	FD研修はその場でアンケートを実施し、第2回、第4回で結果を報告。
⑨エビデンス保管の電子化の改善	○	4回の収集期間を、前期末、学年末の2回に絞り、各回の収集期間を倍の2週間に延ばした。
⑩エビデンスの有効活用の検討	○	グループウェアに用意することを提案し実施に向けて議論してきたが、セキュリティ上の問題が残されるところとして見送った。

⑪エビデンス収集・保管の改善	○	第1回 今年度の収集保管方法を決定。ワーキンググループで対応 10月の機関別認証評価での問題点を第4回委員会で対応策を立てて11月末より実施した。
⑫試験問題レベルの保証確認	○	メールで学生課より依頼。第4回で前期分、第6回で後期分を確認。 後期分より、MCCの本格運用に伴いチェック基準を見直し、MCC規定を従来の基準と併記することとし、周知した。
⑬各部署への検討依頼、回答の集約	○	随時実施
⑭メール目安箱への対応	○	随時実施
⑮平成30年度版教育改善報告書の編集・発行	○	第6回で報告、5月中旬にHPで公開する。

(3) 平成31年度の活動に向けた提言

- ① 教育改善報告書の評価項目の検討
- ② 機関別認証評価での改善すべき点として挙げられた事項に関する検討

3 平成 30 年度における各種点検報告

3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

平成 30 年度に、「学習・教育目標達成度自己評価シート」について改善が実施され、それらの経緯と改善点が教務委員会から報告された。それを以下に示す。この点検については次年度とする。

学習・教育目標達成度自己評価シートの改善 (以下教務委員会からの報告)

2019. 3.12
教務委員会

学習・教育目標の自己評価変更理由

これまで学生の学習・教育目標の自己評価の目的が、教育システム改善のためのものになっていなかったため、目的を見直し、これに沿って自己評価を変更した。

教育システムは実施者が作成、運用し、評価を行った後、改善するものである。評価において、実施者の自己評価と、教育の享受者である学生からの評価が必要である。教育システムを構築し教育を実行している我々が、教育を受ける側である学生の学習・教育目標の到達度を確認し、自己点検に組み入れ、今後の教育システムの改善につなげるため、昨年までと内容を大幅に変更した。学生は自己評価をすることにより、自身の学習到達度を確認するようにした。

学生の自己評価の集計を迅速に行い、教育システムの改善に反映させるため、マークシートにより行うこととした。学習・教育目標は学生の卒業時に達成度を確認すべきものであるため、5年生のみを自己評価の対象とした。

これまでの実施目的は、「学生自身が学習教育目標を意識し、学習の自己達成度を評価することで、自己の学習改善につなげるため」とされており、本来の教育システムの改善の目的に合っていなかった。複雑な評価シートであり、学生の自己評価の回収率が悪く、運用が考えられていなかった。さらに、回収した自己評価の集計が困難で、集計結果も教育システムの改善に全く利用されていなかった。すなわち書類作成のための無為な作業であった。これらのことは学習・教育目標の自己評価だけでなく、他のシステムにも散見され、全体を見直して行く必要がある。

以上の理由から、学習・教育目標の自己評価方法を変更した。

変更した新しい「学習・教育目標の達成度自己評価調査票」を次に示す。

3-2 学生との意見交換会に関する点検

(1) 本科学生との意見交換会の点検

学習・教育目標、教育課程、教育方法、評価方法、教育環境、学校行事などに対する意見や要望を学生から聞き、学校からそれらに対して回答する形式の意見交換会が、教職員および学生が一堂に会して例年行われている。今年度は12月14日（金）午後4時15分から午後6時15分まで、学生の代表である学生会役員を中心とした学生20名と学校側との意見交換会を実施した。学生側参加者の内訳は、平成30年度正副学生会長、学生会役員及び工嶺祭役員などであった。学校側の参加者は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、総務主事、学生支援委員、学生課長、学生係職員であった。意見交換は基本的に学生側から提示された「学校への意見・質問募集の集計結果」（平成30年10月17日付提出）への担当部署からの回答書（平成30年11月28日付提出）をもとに、「授業等学習面の課題」、「教育環境」などのテーマについて意見交換が行われた。

主な意見と回答を、付録1「平成30年度学生会役員との意見交換会」に示す。

まとめ

学生から出された意見は、全クラスから提出されたアンケート結果を、学生会役員が取りまとめ、学校側に提出したものであり、時間と労力を要した貴重で切実な学生の声と言える。学校側は、これらを真摯に受け止め、改善に向けて学生の力も借りながら対応する必要があると思われる。クラブ活動の意義やプールの廃止については教員側にも十分な説明が成されたとは言えず、学生にとっても理解できない事案となり、質問や意見が多数寄せられたと考えられる。

学生からの要望は多岐に渡り、建設的な要望もあり、長野高専をより良くする視点で、学生のために教職員が一体となり改善を推し進める必要があると思われる。

(2) 専攻科学生との意見交換会の点検

今年度は平成31年2月19日（火）午後2時30分から午後4時まで、専攻科1、2年学生と教育・研究環境、専攻科カリキュラム等に関して意見交換を行うことで、今後の教育改善に役立てることを目的として行われた。学生側参加者は、専攻科1年生と2年生、教職員側の参加者は、専攻科長専攻長、専攻科運営委員、学生課課長補佐校長であった。

意見交換会にて専攻科生と活発な議論が行われた。そこで出された専攻科生からの意見要望とその回答を、付録1「平成30年度学生との意見交換会」に示す。

まとめ

専攻科学生からの意見・要望も多岐に渡り、活発な意見交換が行われた。このような機会をもとに、学生の理解を深め、教育改善を進めることが重要である。

3-3 平成29年度参与会の報告書の点検と出された改善点の整理

平成30年2月8日に第14回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第14回 長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

1. 参与会の概要

(1) 出席者

- ・ 参与会のメンバー → 8名
- ・ 本校関係者 → 校長他 25名(内 オブザーバー 9名)

(2) テーマ → 「長野高専の評価の実施について」

(3) 協議題

- ・ 評価方法について.
- ・ 評価資料について.
- ・ 長野高専の評価の実施について.

(4) 議事内容

参与会会長である半田志郎信州大学工学部長が議長となり、議事が進行された。上記の協議題ごとに本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

2. 今後の課題

参与会の質問・意見を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) 学力検査の科目の検討.
- (2) 受検者対策として追跡調査の検討.
- (3) 入試とアドミッションポリシーの検討.
- (4) 留年と学年制の検討.
- (5) 全高専の比較の検討.
- (6) 専攻科入学選抜方法とTOEICスコアの検討.
- (7) ボランティア活動とロボコンについての検討.
- (8) 学生相談室とカウンセラーについての検討.
- (9) 外部資金の現状とその検討.

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたし。

3-4 実施済み研修会の効果の点検およびその改善

平成30年度には2回のFD研修会が開催された。研修会の効果を点検するため、FD研修会終了後に参加者に対してアンケート調査を実施した。研修会の内容が活かされているかどうか、開催回ごとに分析する。

(1) 第1回「Introduction to CDIO」(4/26実施, 59名参加)

テーマ設定については「ふさわしいテーマであった」との回答が72% (50件中36件)であり、CDIO加盟に向けた需要に応える観点から妥当な開催であったと考えられる。講演内容への興味については、肯定的な回答が78% (大いに興味をもてた:17件, どちらかといえば興味をもてた:22件)であり、関心がある内容であったといえる。また、今後の授業に生かせるかについては、肯定的な回答が76% (大いに活かせる:5件, どちらかといえば活かせる:33件)であり、直接生かせるとはいえないが、考え方や理想の形として、今後の方向性などの検討に生かせるといえる。

今年度、CDIOへの加盟が認められたこともあり、工学教育における改善、充実に向けた、ふさわしい研修になったといえる。

(2) 第2回「サイバーセキュリティの重要性～攻撃の手口と対策～」(6/6実施, 81名参加)

テーマ設定については、95% (74件中70件)が「ふさわしいテーマであった」と回答しており、セキュリティの脅威が高まっている中、適切なテーマといえる。講演内容に興味を持てたかとの問いに関して、100% (大いに興味を持てた:50件, どちらかといえば興味をもてた:24件)が肯定的に回答しており、セキュリティの脅威に対して、具体的な示唆がなされたといえる。

情報セキュリティの脅威に関して、学校全体として、危機感をもって対応しなければならない状況において、参加者にその危機感が伝わった研修会になったといえる。

(5) まとめ

第1回の研修会では、CDIO加盟に関連する工学教育に関するCDIOの説明ではあったが、工学教育に関する知見が得られた。これからの本校の教育改善につながることを期待する。

第2回の研修会では、情報セキュリティに関する研修であった。これは、一度受ければ良いものではなく、その時々具体的な状況や環境に基づいて、継続的に知見を得る必要がある。継続的な実施が望まれる。

(6) 参考資料

本校で開催されている過去6年間のFD研修会のテーマは以下の通りである。

平成29年度

- ・第1回 教育・研究活動における著作権
- ・第2回 モデルコアカリキュラムの実践推進—東京高専におけるカリキュラム改革
- ・第3回 授業力向上研修(CTT+のスキルを授業に取り入れ、アクティブ・ラーニング型授業へ)
- ・第4回 情報セキュリティ教育の重要性と信大での取組み

平成28年度

- ・第1回 高専卒業生アンケートから見る高専教育の地平【高専の今後】
- ・第2回 情報セキュリティに関する講話・本校におけるセキュリティインシデントの事例【情報セキュリティ】
- ・第3回 アクティブ・ラーニング【教育手法】

平成27年度

- ・第1回 科研費獲得の方法とコツ【研究費獲得】
- ・第2回 アクティブ・ラーニング【教育手法】
- ・第3回 高専卒業生キャリア調査【調査結果】

平成26年度

- ・第1回 情報モラルと情報セキュリティ【情報セキュリティ】
- ・第2回 学生の自主性を延ばす方策【教育手法】
- ・第3回 高専を取り巻く現状と新たなる高等教育機関【高専の今後】

平成25年度

- ・第1・2回 心の健康【メンタルヘルス】
- ・第3回 イノベティブジャパンプロジェクト【教育手法】

平成24年度

- ・第1回 キャリア形成支援【キャリア教育】
- ・第2回 モデルコアカリキュラム【教育手法】

平成23年度

- ・第1回 科学研究費採択数アップのための講習【研究費獲得】
- ・第2回 サンデル的対話型講義の思想と方法【教育手法】

3-5 エビデンス保管の電子化の改善および有効活用の検討

(1) 平成 30 年度に実施した改善作業の概要

平成 30 年度は、昨年度に構築したエビデンス収集システムの定着とブラッシュアップをとおして、エビデンスをより効率よく、確実に収集することを目標に活動を進めた。また、10 月に受審する機関別認証評価に向けて遺漏なく資料を揃えることが求められ、この作業をとおして現状の問題点が浮き彫りとなった。この問題点を解決するための方法を検討、策定することが年度後半の目標となった。

(2) エビデンス収集システムの改善

1) エビデンス提出チェックシステムの概要と平成 30 年度初頭の変更点

昨年度にエビデンスの収集方法を下記のように変更し、作業効率と収集率の向上をはかった。

- エビデンスの提出先にグループウェア内に設けた提出用フォルダを指定し、このフォルダをアクセス権と期間（4 期、各 1 週間）を限定して開放した。提出期間後はフォルダを閉鎖したうえで各学科のワーキンググループ員が提出されたエビデンスをチェックし、チェック後はワーキンググループ長が一括して保存用の PC へエビデンスを移動した。
- チェックした結果（提出／未提出）は学科ごとに「エビデンス提出チェックリスト」にまとめ、これを常に参照できるようにグループウェア上に掲示した。このチェックリストは年度初頭に全教員へ昨年度版を提示して、そこからの変更点を申請して当年度版とした。
- 複数クラスに対して同じ内容の授業をしている場合は、「エビデンスはどのような方法・レベルで成績評価をしているかがわかればよく、各クラスでどのような成績が付けられたかまでわかる必要はない」とし、たとえ複数名の教員で担当していても、代表 1 クラス分のみエビデンスを作成すれば良いこととした。

本年度は以上に加え、下記の変更を加えた（6 月初頭に全教員へ連絡）。

- これまで 4 回の定期試験ののちにエビデンスの収集期間を設けていたが、これを前期末、学年末の 2 回に絞り、かわりに各回の収集期間を倍の 2 週間に延ばした。ワーキンググループ員の負担を軽減することはもちろんのこと、提出の回数を絞った方がどこまで提出しているか混乱が少なくなるという狙いもあり、変更を踏み切った。この変更についてこれまで提出者側からの不満は寄せられておらず、逆に、出張の多い学期末（9 月・3 月）において提出期間が拮がったことに対する好感の言をいただいている。
- 試験問題の表紙に記載する「合格最低点」の欄はこれまで変更できない「60 点」に固定していたが、課題等によっては満点が 100 点でない場合もあるため、この欄を自由に変更できるように変更した。

2) 認証評価受審により見えた問題点と講じた対応

10 月に受審の認証評価の資料として、これまで収集してきたエビデンスを提示した。この提示に向けての準備をとおして、下記の問題が明らかとなった。

- ① 成績評価履歴と対応してエビデンスが提出されていない（小テストが提出されていない、「授業点」をどのように得点化しているのかわからない、など）。
- ② 「エビデンス提出チェックリスト」と成績評価履歴との対応が取れていない。そのため、チェックリストに項目として記載されていないエビデンスはチェックされないままとなる。
- ③ 「提出課題」と「平常点の根拠」との棲み分けが曖昧である（レポート課題などを、点数の記載を省略できる「平常点の根拠」として提出するケースが散見）。
- ④ シラバスが提出されていない（専攻科科目、非常勤、新任、休業明け、等）。

以上に対して下記の対応をとることとした（11月末に全教員へ連絡）。

- ① 改めて全教員（非常勤講師連絡担当教員を含む）に、「シラバス」と「成績評価履歴」と「エビデンス」が完全に対応するようにお願いした。
 - 成績評価履歴に小テスト 1,2,3,4 を載せた場合は、各小テストのエビデンスをわけて揃える。
 - 成績評価履歴に「授業点」の項目を載せた場合は、授業点の根拠となるエビデンスを揃える。困難な場合は、「シラバス」「成績評価履歴」に「授業点」を組み入れない。
- ② 改めて全教員に（非常勤講師へは連絡担当教員から）、エビデンス提出チェックリストの項目に漏れがないかの点検をお願いした。なお、これまで年度初頭に昨年度のリストからの更新をお願いしていたが、実際にエビデンスを作成する段まで見通せない部分もあるため、エビデンスを提出する際にリストの変更点を申告してもらう方式に変更した。
- ③ 改めて「提出課題」（授業時間外に作成期間を設けたもの）と「平常点の根拠」（授業時にその場で実施したもの）との違いを周知した。また、「平常点の根拠」も成績評価履歴では点数化されているので、「平常点の根拠」も試験等と同様にエビデンスを用意し、表紙に点数を記載するように変更した（表紙の様式も点数欄の記入があるものに変更した）。
- ④ シラバスの提出については教務委員会、ならびに専攻科運営委員会へ状況を報告し、提出状況の確認をお願いした。

以上のように体制を整えたうえで、3月14日～29日に年度末のエビデンス収集期間を迎えた。平成31年4月12日時点における平成30年度エビデンスの提出率は91.6%（機械工学科81.8%、電気電子工学科100%、電子制御工学科95.6%、電子情報工学科98.5%、環境都市工学科81.5%、一般科92.1%）であり、学科間で差があるものの概ね良好であった。昨年度まで提出に応じなかった教員に対しても、教育改善委員長からの指導や校長からの注意喚起により、本年度は提出に至った。

しかしながら、3月末で連絡・相談・引き継ぎがないまま収集担当者が3名職場を離れる事態が発生し、急遽ワーキンググループ長がエビデンスの点検・督促を請け負うこととなったが、学科の事情がわからないままの作業となり混乱をきたした。提出する側の負担が増えてしまうが、学年末の収集期間は3月20日頃にいったん締め切って点検作業を始めてもらうことが必要であると痛感する出来事であった。また、やはり相談・連絡がないままエビデンスの提出に応じない教員が未だおり、これからも根気よく指導していくことが必要であろう。

（3）エビデンスの有効活用

エビデンスは教育活動の証明書類であるとともに参考書類としても重要な役割を担うものである。エビデンスを参考資料として活用いただく方法として、現在は学生課に設置のエビデンス保管専用PCにてエビデンスを閲覧頂く形式をとっている。昨年度は閲覧者の利便性を高めるべく、グループウェアにエビデンス参照用のフォルダを用意することを提案し実施に向けて議論してきたが、セキュリティ上の問題が残されるとして見送った。本年度は教育改善委員会にて実施の「試験レベルチェック」をエビデンス収集期間中に提出フォルダ上のエビデンスを参照する形でおこなうことも発案したものの、時期を合わせることが難しく実施に至らなかった。全教員へは参照方法について周知しているものの、新任教員が授業前任者の試験を参照する程度に留まっているのが現状であり、引き続き周知方法、活用方法の検討が求められる。

4.平成30年度 FD研修会実施報告

4-1 平成30年度第1回FD研修会実施報告

1. 研修会概要

日 時：平成30年4月27日(金) 16:15~17:00

場 所：第一会議室

講 師：Prof. Helene Leong

シンガポール・ポリテク教育開発部ディレクター

アジア地域 CDIO 共同議長

シンガポール・ポリテク CDIO 代表

題 目：Introduction to CDIO

出席者：59名

2. 講演内容

本年6月28日(木)~7月2日(月)に金沢工業大学で開催されるCDIO国際会議で本校は加盟申請のプレゼンを行う予定で準備を進めている。高専機構が各校に加盟を勧めるなか、シンガポール・ポリテクのアジア地域CDIO共同議長 Helene Leong 教授をこのたび日本に招聘し、金沢での国際大会で加盟申請を行う仙台、長岡、長野各高専訪問が提案され、本校でもFD研修の場でご講演いただけることとなった。

教授はまず、シンガポール・ポリテクでCDIO教育がなされている状況について、CDIOの基本概念を軸に説明された。それぞれの教科が平行に走っているのではなく、それらを繋ぐようにプロジェクトが編み込まれていることが説明された。CDIO Standards について説明がなされ、Conceive 考える、Design 設計する、Implement 実装する、Operate 運用するプロセスを、動画を交えて説明された。チームワークとコミュニケーションの重要性がチェックリストともに説明された。CDIO教育ではWhat(知識、技術等何を学ばせるのか)についてはCDIO Syllabusを通じ、How(技術をどうやって確実に習得させるか)をCDIO Standardsを通じ、進めるとの考え方である。

質疑

Q：コミュニケーションスキルの重要性は理解できたが、それはどのように評価するのか？

A：例えば、他の分野のエンジニアとミーティング等を行う場合、コミュニケーションスキルが重要となる。評価は語学の教員と、専門学科の教員が連携して行うことが望ましい。

Q：評価は重要と思う。これが学生のモチベーション向上につながるということか？

A：そう思う。教育の中にチャレンジできることや、楽しみを見出せることもモチベーション向上に重要である。

3. アンケート集計結果

50名からの回答があった。

項目1：第1回FD研修会としてふさわしいテーマでしたか。

36：ふさわしいテーマであった

2：ふさわしいテーマでなかった

12：どちらとも言えない

項目2：第1回FD研修会として開催時期は適当でしたか。

36：適当であった

3：適当ではなかった

11：どちらとも言えない

項目3：講演内容に興味がもてましたか。

17：大いに興味もてた

22：どちらかといえば興味もてた

11：あまりもてなかった

0：全くもてなかった

項目 4：今後の教育・研究活動に活かせる内容でしたか。

- 5：大いに活かせる
- 33：どちらかといえば活かせる
- 11：あまり活かさない
- 1：全く活かさない

項目 5：今後このようなテーマの研修会に参加したいと思いますか。

- 35：参加したい
- 4：参加したいとは思わない
- 11：どちらとも言えない

項目 6：今後の FD 研修会に対してご提案，取り上げてほしい内容，ご希望などありましたら，ご記入ください（自由記述）

- ・もう少しゆっくり話を聞けるとよかったです。
- ・英語がわからない。みんな分かっているみたいですごいと思った。
- ・CDIO 加入に向けた良い研修だと思いました。
- ・PC の不具合の事前チェックをして欲しい。
- ・自分の英語能力が低すぎたため，貴重なお話であったが，30%程度しか理解できなかったと思う。

4-2 平成 30 年度第 2 回 FD 研修会実施報告

1. 研修会概要

日 時：平成 30 年 6 月 6 日 14:30 - 16:00

場 所：100 番教室

講 師：株式会社 LAC 長谷川 長一氏

株式会社 LAC サイバー・グリッド・ジャパン 理事

日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）教育深いゲーム教育 WG リーダー

題 目：サイバーセキュリティの重要性～攻撃の手口と対策～

出席者：81 名

2. 講演

2.1 概要

サイバーセキュリティの動向では，2018 年度の脅威として，標的型攻撃による情報流出，ランサムウェアによる被害，ビジネスメール詐欺などについて，注目が集まった。サイバー攻撃の目的として，金銭を目的とした攻撃が 9 割であり，そのほか，不満・恨み（逆恨みが主），諜報活動のために行われている。

狙われている情報として，研究データ，調査データ，技術データが対象となっている。名簿データ，個人情報，攻撃の元になり，現状では主対象ではない。主対象者だけでなく，系列会社，取引会社，産学連携部分など，周りを狙ってくる。

標的型攻撃として，感染させることが目的ではなく，乗っ取り，そのコンピュータの権限を使って，機密情報などを盗んでいる。乗っ取りのきっかけとなるメールを文面から，見分けることは難しい。気がつかないように，分割して，圧縮して送っている。

コンピュータの環境は変化している。特定の人だけが使うものから，一人 4, 5 台所有し，マルチデバイス，マルチプラットフォームの端末を管理しなければならない状況にある。

IoT 関連のウイルスは増えており，テレビ，防犯カメラ，複合機など，ネットワークに接続することで，身近な機器が脅威の対象となっている。自動車，制御システム，プラントなど，ライフサイクルが長い対象では，対策も難しくなる。

問題が起こったときに，追跡調査等できるようにするために，ルールに乗っ取った管理が必要である。対策のあり方として，敵や手口を知って，備える。事故は起こるものとして，システムや情報，ルールと行うべき対策を知る。高等教育機関では，一般の企業組織との違いを踏まえる必要がある。被害を生じさせないための対策のほか，被害を受けたときの対策も考える必要がある。事故が発生した前提で備えておく必要がある。

2.2 質疑

Q：PDFファイルが添付されているときなど、どのような対応を取ればよいか。

A：PDFファイルも安全とは言えなくなっている。表示時にJavaScriptを実行させることでダメージを被ることがある。Office系の添付ファイルの時には、マクロなどによってダメージを被ることがある。安全かどうか判断がつかない場合は、判断できる人に相談してほしい。

3. アンケート集計結果

項目1：第2回FD研修会としてふさわしいテーマでしたか。

- 70：ふさわしいテーマであった
- 0：ふさわしいテーマでなかった
- 4：どちらとも言えない

項目2：第2回FD研修会として開催時期は適当でしたか。

- 60：適当であった
- 6：適当ではなかった
- 8：どちらとも言えない

意見：試験前

項目3：講演内容に興味がもてましたか。

- 50：大いに興味もてた
- 24：どちらかといえば興味もてた
- 0：あまりもてなかった
- 0：全くもてなかった

項目4：今後の教育・研究活動に活かせる内容でしたか。

- 36：大いに活かせる
- 31：どちらかといえば活かせる
- 7：あまり活かさない
- 0：全く活かさない

項目5：今後このようなテーマの研修会に参加したいと思いませんか。

- 55：参加したい
- 3：参加したいとは思わない
- 16：どちらとも言えない

項目6：今後のFD研修会に対してご提案、取り上げてほしい内容、ご希望などありましたら、ご記入ください（自由記述）

- ご苦勞様です。開始時間ですが、3コマ目の授業、片付け等があると、14:30はかなり厳しいです。もう10分程度空けていただければと思います。
- とてもよい講演だったと思います。
- 試験期間中はむしろ忙しいので、研修会や会議を集中させないで欲しい。
- 実務経験豊富な講師によるわかりやすい研修で大変有意義でした。
- 障害等をもつ学生との接し方等の内容を含む研修会
- 内容は興味深かったが、FDで取り上げることにFD本来の意味とズレを感じる。

5. 2019年度の活動に向けた各種委員会等への提言

平成31年度 各種委員会の活動状況の点検結果、学生との意見交換会、外部評価、卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査からの改善内容等の意見をもとに、各種委員会等への提言を以下に示す。

1. 教務委員会への提言

- ①学生の主體的な学習への取組みと意欲の向上が課題に挙がっているが、学習時間の増進、対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入等に関する検討は不十分である。夏季自主研修の課題提供として専門科目の重要性を具体的に認識できる低学年学生向けの問題解決型学習の導入例、企業見学会やインターンシップがあげられているが限定的である。強化されたい。
- ②本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築について、方針、内容が不明確である。とくに教務委員会では専攻科との連携が議題で取り上げられており、必要があるとの認識が確認できるが、専攻科運営委員会で本科との連携が課題となっておらず、連携を強化した教育体制の構築には双方の協力が必要であると考えられるため、よりいっそうの努力を期待したい。
- ③科目間連携が低学年の成績不振学生への対応に限った話になっている。教員間の連携と協働教育に踏み込んだ話になっていないため、高度化連携も踏まえて教員のグループ化について検討を進めるべきである。また Blackboard の利用促進や MCC への対応は活動方針にあがっていたが検討が行われていない。これに関する議論を強化していただきたい。

2. 学生支援委員会への提言

- ①学生支援・指導について学生相談室との連携を深める。
- ②課外活動に関するホームページの掲載や学園便り等の広報活動について、情報セキュリティ委員会及び広報委員会との連携を図り、掲載基準の作成及びその徹底を図る。
- ③教務委員会と連携して、進路支援室等の充実を図り、キャリア教育を充実させる。

3. 寮務委員会への提言

- ①補食室や談話室の掃除等、登校カードの掲示・収納も含めて、正副階長への指導
- ②動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっているため、ネットワーク利用および違反指導

4. 専攻科運営委員会への提言

- ①カリキュラムの見直し、大学との連携など、新しい改善の動きがみられる。今年度計画され、来年度から実施される、大学との連携について評価と改善が望まれる。

5. 研究支援委員会

- ①引き続き研究活動について支援の充実化を図る。
- ②「動物実験」(第1回研究支援委員会議事概要)、「遺伝資源の取り扱い」(第2回研究支援委員会議事概要)について、当該事案に該当する研究、実験等が学内において確認された場合は、随時検討する。
- ③「研究倫理教育」(第4回研究支援委員会議事概要)については、e-learning などにより、引き続き教職員に向けて実施する。

6. 広報委員会

<広報企画部門>

- ①サイエンス・ツアーの申込書やアンケートを、記入ならびに集計のしやすい方式に切り替えることを検討してはどうか。最近では Google フォームの利用が、集計なども自動でおこなわれ有効に思われる。
- ②サイエンス・ツアーも含めた科学イベントへの参画の状況について、教員間で大きく差があり、参画教員の確保も困難となっている。参画教員のモチベーション維持のためにも、教員校務における位置づけを明確にし、人事評価・職務待遇面におけるインセンティブを検討してはどうか。

- ③サイエンス・ツアーやサイエンス・ライブへの参画者募集が年度当初の忙しい時期におこなっているため、事前予告(前年度3月)を実施する。
- ④産業フェア等への出展は、イベント全体への来場者数だけではなく、出展ブースにどれだけの人が立ち寄り、資料配付やアンケート収集などの成果がどれだけあったのかを費用対効果の目安にすべきに思う。
- ⑤前項と通じるが、部門の活動が高専のPR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保と重要な目的を担っており、そのため実に多岐・多数にわたっている。負担が過度とならないよう、負担の分散化(企画室に留まらず各学科からの協力者を依頼するなど)や省力化(活動の回数を増やすのではなく、各イベントの中で広報効果をもっと上げる方法がないか、など)を、見に来る人側の視点も鑑みながら検討いただきたい。

< 刊行物部門 >

- ①学園だよりの発行回数削減は、予算が問題ということならば一部をオンライン配信のみにする方法もあるのではないかと。たとえば情報発信部門で作成・配布している中学生向けチラシへ学園だよりのQRコードを載せたり、保護者へは成績通知書にQRコードを載せたプリントを同封したりするなど、予算を抑えて周知する方法もあろう。予算だけでなく、PR効果、作成者の負担なども含めて発行回数について検討いただきたい。
- ②すでに広報イベントで配布したグッズやノベルティを手にした生徒が本校に入学してきている。たとえば定規などは印刷された方眼が便利であることや作りの丈夫さを理由に多くの学生が未だ活用している。グッズやノベルティの感想・意見を調査し、次に作成するグッズへのフィードバックをかけてはどうか。

< 情報公開部門 >

- ①アントレプレナーシップ、国際化など、あらたな取り組みとしてアピールしたい内容についてはトピックスの一カテゴリとしてではなく、長野高専基金のようにバナーなどを用意して誘導してはどうか。ただし、ページ下部のバナーが果たして目に付きやすいかも含めて検討が必要である。
- ②トップページからの誘導がないため、新規に掲載したインタビュー記事(たとえば研究者ピックアップ)や、こまめに更新を続けている校内活動の記事(たとえば図書館)がまったく目に付かない。「見る人」と「見てもらいたい人」の両方の立場に立って、トップページからどのように誘導すべきなのかを検討・再構築していただきたい。
- ③同じく「何を見てもらいたいのか」の観点から、集まる(集める)記事のバランスを調整いただきたい。一年間の「トピックス」「お知らせ」の一覧を眺めると、運動部の結果報告、調達情報、教職員募集の案内が多く目に付く。学校行事、コンテストの参加、文化・製作系団体の活動などの記事は増えてもいいであろうし、インタビュー記事ももう少し1年あたりの取材件数が増えてもいいのではないかと。
- ④「一番伝えたいこと」を伝えるにもっとも効果的である大型トップバナーが活かされていない。イベントへの募集、工嶺祭、大きなニュース、新規コーナーへの誘導など(前述のアントレプレナーシップや長野高専基金などにも使えるはずである)、活用法は多岐にわたる。積極的な活用を検討いただきたい。

7. 国際交流センター

- ①従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。

8. 教育改善委員会

- ①教育改善報告書の評価項目の検討
- ②機関別認証評価での改善すべき点として挙げられた事項に関する検討

6. 高等専門学校機関別認証評価における訪問調査結果に基づく 各委員会等への提言

平成 30 年度 高等専門学校 機関別認証評価の学校関係者（責任者）への訪問調査結果の説明および意見聴取の報告を受け、今後本校が対応すべき点として各委員会等へ提言する。

1. 優れた点として指摘された点を示す。他高専にない取組みとして 今後も継続して実施するよう提言する。

教務委員会（教務主事）

学校全体としてエンジニアリングデザイン対応科目である PBL 型授業において、新たな課題に取り組みさせるなど創造力を育む取組みを行っており、その成果は多数の学会発表や各種コンテストでの受賞につながっている。

4 年生の 90% 以上が履修している実務訓練において、学生及び受入れ企業等に事前に目標とする実践力の内容を説明するなど、実務訓練に反映されるよう工夫し、実践力を育む教育を実施している。

専攻科運営委員会（専攻科長）

専攻科 1 年次の実践工学演習及び学外実習は、実践力を養成することを目指して 4 か月に渡り企業等で実務に従事させる科目であり、学生が提出する学外実習月報と報告書、指導教員が依頼企業等を訪問して提出する学外実習調査書、企業が評価した学外実習評定書等により実践力の涵養を確認している。

専攻科課程の就職について、就職率は極めて高く、就職先も製造業、情報通信業、学術研究専門技術サービス業、公務員関係等、当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても進学率は極めて高く進学先も専攻の分野に関連した大学の講座の研究科となっている。

学生支援委員会（学生主事）

准学士課程の就職において、就職率は極めて高く就職先も製造業や電気ガス熱供給水道業、情報通信業、学術研究専門技術サービス業、公務員関係等の当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても進学率は極めて高く、進学先も学科の分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系学部となっている。

寮務委員会（寮務主事）

学生寮では、特に日常の学習習慣を涵養するための低学年勉強会、学習時間コアタイムの定着を目的としたコアタイム巡視等の取組みや成績向上者を表彰する努力賞の制度を設け、学習寮として成果を上げている。

2. 改善を要する点指摘された点を示す。各委員会等で検討頂きますよう提言をする。

執行会議（総務主事）

毎年中期目標中期計画に基づく年度計画の実績報告を中心とした、自己点検評価を実施しているものの、学校教育法第 109 条第 1 項に規定される学校の総合的な状況についての定期的な自己点検評価を実施するための基準、項目等の設定は不十分である。

准学士課程及び専攻科課程のカリキュラムポリシーに関して、学習成果をどのように評価するかについてはシラバスに評価項目が記されているものの、カリキュラムポリシー自体にはその基となる方針が明確に記されていない。

准学士課程及び専攻科課程のアドミッションポリシーには、求める学生像は明記されているものの、その様な学生を実際に受入れるための入学者選抜の基本方針が明確に記されていない。

研究成果、研究活動に関する学校としての目的及び基本方針が、規程等において明確に定められていない。

地域貢献活動等に関する学校としての目的及び基本方針が、規程等において明確に定められていない。

教務委員会（教務主事）および専攻科運営委員会（専攻科長）

准学士課程及び専攻科課程においてディプロマ・ポリシー及びカリキュラムポリシーに対する学生認知状況は極めて低く、周知の取組みについて改善が必要である。

一部の授業科目において複数年にわたり同一の試験問題が出題されている。また、複数の科目で学習成果の評価に不適切な点が見られる。

教務委員会（教務主事）

准学士課程において入学者選抜の基本方針に沿った学生の受入れが、実際に行われているかを検証する取組みは十分とは言えず、検証結果が入学者選抜の改善につながっているとはいえない。

専攻科運営委員会（専攻科長）

専攻科課程において入学者選抜の基本方針に沿った学生の受入れが、実際に行われているかを検証する取組が行われていない。